

法政ビジネススクール

法政大学大学院経営学研究科
経営学専攻夜間コース

Hosei
Business
School

2012

ボアソナード・タワー



大学院棟



「汝自身を知れ」

HBSの特徴

ビジネススクールでなぜ修士論文を書くのか？

法政大学大学院経営学研究科長 奥西 好夫



法政ビジネススクール(経営学専攻・夜間修士課程、通称HBS)は、1992年4月にスタートし、間もなく20年を迎えます。この間、社会人が仕事を続けながら、高度職業人としてそれぞれの専門領域における職務知識・能力やマネジメント能力を高めることを一貫してめざしてきました。

専門領域としては、**企業家養成、国際経営、人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウントティング・ファイナンスの5つのコース**があり、学生は、通常、1年次に授業科目(所属コースの授業以外に他コースの授業や基礎科目も自由にとれます)やワークショップ(実務家をゲストに迎えてのセッション)をとり、2年次に少人数制のゼミで指導教員のチュータリングを受けながら修士論文を作成します。HBSでは特にこの修士論文指導に力を入れており、1人の教員が3名以下の院生を担当し、1年近くにわたってきめ細かい個別指導を行うとともに、コース全体での報告会や集団指導も行っています。

ビジネススクールでなぜ修士論文を書くのか、疑問に思われるかもしれません。修士号取得に必要なだから、というは必ずしも正しくありません。専門職大学院では学位論文は修了要件ではありませんし、HBSのような伝統的な大学院でも修士論文の代替措置が認められています。では、なぜHBSは修士論文の作成を重視しているのか。それは**高度職業人としての能力を高める上できわめて有効な方法だと考えているからに他なりません。**

正直言って、多くの社会人にとってアカデミズムの世界はかなり異質なものだと思います。私自身、かつて10年近くサラリーマン生活を送り、調査畑の仕事も長く経験しました。しかし、その後大学院に行ったとき、同じ調査や分析と言っても両者は決定的に違うと感じました。サラリーマン時代の私は、組織から要請されたテーマを、比較的短期間に、要領よくこなすことに腐心していました。「要領よく」と言うのは、世間でどのような議論が主流かをバランスよく察知して内容をまとめ、上司たちが無難な判断を行えるようにするといった意味です。言うまでもなく、こうした態度は真理の探究を旨とするアカデミズムの本来の役割とは似て非なるものです。

では、社会人にとって大学院やアカデミズムはやっぱり敬遠すべきものなのでしょうか。否。**大学院は、仕事の延長そのものではありません。相当異質な体験だと思えます。でもだからこそ意味があると思うのです。**大学院は、さまざまな課題に対して必ずしも安直な「正解」を与えてくれるわけではありません。正解がないことしばしばです。しかし、そのことを十分に踏まえて意思決定や行動するのと、そうでないのとでは、大きな違いを生む可能性が高いと思います。

上では、実務とアカデミズムという2つの世界の違いを強調しましたが、一方で、両者はもっと密接に連携、協働すべきだと思います。多くの院生は、各自の仕事経験の中から修士論文のテーマを見つけますが、これはすばらしいことです。現場の人間が持つ鋭く切実な問題意識と詳細な情報が、大学院で教育される理論や分析手法、先行研究の理解などと融合すると、しばしば学術的にも非常に優れた論文が生まれることは、HBSのこれまでの歴史が十分に証明しています。**仕事経験が一方にあって、それを大学院という異質な場で、距離を置いて深く吟味することに意味があるのです。**ミンツバーグはマネジメント教育における「**経験に基づく省察**」の意義を強調していますが、同様の趣旨だと私は理解しています。

このほか、**修士論文の作成は、問題を発見する力、答えを粘り強く追究する力**といったビジネスの現場で重要な能力を醸成する上でも有効だと思えます。これは、多くの修了生たちが卒業後、しばしば指摘する点でもあります。ジャック・ウェルチ(GEの元CEO)はイリノイ大学で化学のPh.D.をとりましたが、自伝の中でこう言っています。「**化学工学を学んだことは、企業に入って経験を積むための大きな武器になるといつも感じていた。その講義も論文執筆も、きわめて重要な教訓を教えてくれるからだ。それはさまざまな問題に対して決められた答えが存在しているわけではないという教訓だろう。本当に大事なものは思考のプロセスだ。**」

こうしたHBSのコンセプトに興味を持たれた方々と一緒にできる機会を心待ちにしています。

企業家養成コース

よりよい社会を築くため、その担い手となる皆様へ

本学の企業家養成コースは、社会や組織の変革を志すリーダーを育むことを目的として、1992年に他大学のビジネススクールに先駆けて開講されました。

今日の日本の社会においては、若手の段階から、自らで課題を設定し、部下や同僚を巻き込んでいくような能力が求められるようになっていきます。また、自分のキャリア形成を会社任せにすることができなくなり、自らの力で切り開いていくためにも、幅広く豊かな知識や深い洞察力が欠かせません。

そうした社会的な要請に応えるためには、単なるHOW TOや表面的な知識だけでは不十分で、課題解決の糸口を見いだす能力が必要です。そのために本コースでは、企業経営に関する知識を幅広く学び、修士論文の作成を通じて論理的な思考力の獲得を目指します。

本コースが対象としているのは、単に会社を興し独立経営を目指す人だけではありません。職場の中で新しい事業を立ち上げようとする人、事業を引き継いで本格的に経営者としてのキャリアを歩もうとし

ている人、期限付きのプロジェクトの中でリーダーとしての成果を求められている人など、さまざま

です。これから家庭を持つ人、父親や母親になろうとする人も、実は、家庭を「経営」という意味において、企業家としての素養を身につけることは大切なのです。

履修可能な科目は、企業家活動、企業家史、経営戦略論、ベンチャー・ファイナンス論、ベンチャー・キャピタリスト論、イノベーション・マネジメント概論などで、いずれも各分野の第一線で活躍するスタッフによって担当されます。これらの他に、マーケティング論、組織行動論、人的資源管理論、経営組織論、財務会計論、管理会計論、経営情報論、国際経営論なども、他のコースで履修できる仕組みになっております。

企業家養成コースの大きな特徴として、「ワークショップ」という形式の授業がございます。これは、事業を生み、育てたリーダーや企業の経営者を招聘し、彼らの体験を語ってもらい、それについて学生が質問するというインタラクティブな教育です。「困難に直面したときに、どのようにそれを克服したか」「なぜ、あるいはどのような場面でビジネスアイデアが浮かんだのか」など、企業家の生き様を知ることは、同じ社会人の学生にとって、とても大きな刺激となります。

学生は年齢、職種、業種に関して様々です。毎年、多様な経歴の社会人が企業家養成コースに集まります。授業を離れてもいろいろな交流を通じて繋がるネットワークは、卒業後も大切な財産となるでしょう。



■ 教員紹介および担当科目 ■

宇田川 勝 教授

研究テーマ: 財閥・日本経営史、企業家史
担当科目: 企業家史、企業家養成演習

近能 善範 教授

研究テーマ: 企業間関係とイノベーション
担当科目: イノベーション・マネジメント概論、ワークショップ、企業家養成演習

吉田 健二 教授

研究テーマ: 経営戦略の策定と実行に関する研究
担当科目: 経営戦略論、企業家養成演習

稲垣 京輔 教授

研究テーマ: 起業家間の関係構築と地域コンテクストの再構成プロセス
担当科目: 企業家活動、ワークショップ、企業家養成演習

金 容度 教授

研究テーマ: 企業間関係論、日本企業システムの発展史
担当科目: 企業家養成特殊研究、ワークショップ、企業家養成演習

福島 英史 教授

研究テーマ: 企業戦略と技術革新に関する研究
担当科目: 経営戦略論、ワークショップ、企業家養成演習

決断力を鍛えて、一生の企業家なかまを作る

● MBA 修了生からの声

山田 成徳



●株式会社バリュー・クエスト 代表取締役社長

私はeマーケットプレイス(インターネット上の企業間取引市場)を主事業とする会社を経営しております。会社の成長に伴って、意思決定の範囲が広がり、意思決定のプロセスも複雑化する中で、それまでの「経験と感覚での経営」から脱皮し、経営理論をより体系的に学びたいと考え、私はHBSの企業家養成コースに飛び込みました。

HBSに在籍した2年間で、私は数多くの貴重な経験を得ましたが、特に、ここでは二つのことを挙げたいと思います。ひとつは、企業家養成コースで繰り返し学んだ意思決定の方法についてです。企業家は企業の理念とビジョンを組織に浸透させ、実行に移さなければなりません。さらに、こうした企業理念とビジョンに基づき、限られた時間の中で意思決定しなければなりません。企業家養成コースでは、知識やフレームワークの習得はもちろんのこと、ケースメソッドの授業、グループワークとディスカッション、修士論文の作成など、様々な

学習方法が設けられており、限られた時間で情報を整理・分析し正しい判断を下す方法を体系的に学ぶことができました。

もうひとつの貴重な経験は、「同志」との出会いです。企業家養成コースには、広い意味での企業家を志して、ビジネスの第一線で活躍する多様な人たちが集まります。その仲間たちと切磋琢磨しながら共に成長し、生涯にわたる同志としての関係を築くことができます。そのネットワークは、起業やビジネスアライアンスに直結することもあります。

経営は不確実性との戦いとも言えます。私は在学中に経営理論を学び、仲間とディスカッションし、それを即座に実践してまいりました。HBSでの経験は、経営環境の不確実性が增大する中で企業を継続させるために、終生学び続けなければならないということを実感させてくれた、未来への第一歩であったと感じています。

● (2011年3月修了)

国際経営コース



グローバル化の進むなかでの企業経営を考える

国際経営コースは、HBSの開講に遅れること3年、1995年に設置されています。当コースは、「人材、マーケティング、会計など他分野の“国際的側面”を研究するコース」という設置コンセプトをイメージして作りあげられました。以来、多くの修了生を送り出してきましたが、修了生の活躍分野は幅広いものとなっています。そのなかで、当コース



での研究を土台として海外現法などに赴任し、グローバルに活躍する修了生が多数出てくるようになりました。修了した後もOB/OG組織「HIB Club」を通して情報交換がなされ、修了生同士の結びつきは広がりを見せています。

企業を取り巻く環境は、当コースが設置された当時とは大きく変化しています。そのうちの1つが、経済のグローバル化です。ヒト・モノ・カネそして情報が国境という壁を越えて自由に移動するようになりました。現地法人を持っていない企業であっても、原材料を外国から輸入し

ているかもしれませんし、国内市場でのライバル企業が外国企業かもしれません。グローバル化の進展により、規模や業種にかかわらず、今や海外との結びつきに無縁でいられる企業はないと言ってもよいでしょう。この意味で、国際経営を学ぶ重要性はますます高まりつつあると言えます。個人のレベルでもグローバル化の影響を避けることはできないでしょう。人材の移動がやがて活発になり、皆さんの同僚やライバルが外国人であることも普通になっていくかもしれません。企業経営に関する知識を身につけることはもちろんのこと、それをベースにグローバルに活躍するための能力を養っていく必要があるでしょう。当コースで学ぶ国際経営の理論と皆さんの実務経験が融合されることで、グローバル・マネージャーとして能力を養っていくのではないのでしょうか。

能力向上は受動的に講義を聞いていることのみで図れるものではありません。大学院教育は、それがアカデミック志向なものであれビジネス志向のものであれ、学部教育のような「教員＝教える人、学生＝教えられる人」といった単線的な関係であってはならないと思います。ビジネススクールの教育のあり方は、当然これとは異なります。当コースで実践されている大学院教育を、「自動車の開発技術者とテストドライバーの関係性」に例えて理解すると分かりやすいでしょう。抽象的な理論に詳しい「開発技術者」つまり当コースでいう教授陣と、実際の現場で五感を研ぎ澄ませながら問題を解決していく「ドライバー」つまり社会人院生との双方向のコミュニケーションが、理論と実務経験の融合をより高次元のものへと高めていくのではないのでしょうか。

■ 教員紹介および担当科目 ■

藤澤 利治 教授

研究テーマ: EU経済統合に関する研究、統一ドイツ経済の分析
担当科目: 地域経済研究 [EU]、国際経営演習、ワークショップ

安藤 直紀 准教授

研究テーマ: 海外子会社の経営戦略、移行経済での経営戦略
担当科目: 国際経営論、国際経営演習

横内 正雄 教授

研究テーマ: 英国系海外銀行の発展に関する研究
担当科目: 国際金融論、国際経営演習

高橋 理香 准教授

研究テーマ: 貿易政策の効果に関する理論および実証研究
担当科目: 国際経営演習、ワークショップ

洞口 治夫 教授

研究テーマ: 日本企業の海外直接投資
担当科目: 国際経営論、国際経営演習

修論テーマは、「異文化スペシャリストのビジネス交渉学」

MBA修了生からの声

福岡 賢昌



●十文字学園女子短期大学部 専任講師 ●

●(2006年3月修了)

ボーダレス化、グローバル化の時代の中、企業にとって国際経営の重要性はいっそう増えています。私は、その国際経営をより体系的に整理し、身につけるため、ビジネススクールへの進学を決めました。そのなかでもHBSを選択した理由は、授業時間(通学可能性)、実務経験を有する教授比率の高さにありました。

HBS通学によって得た利点は、数多い院生が幅広い年齢層と多種多様なバックグラウンドを有した、現在第一線で活躍している実務家であるため、2年間で急速に新しい人的ネットワークを構築できたこと、彼らとの授業内外での深い付き合いを介し切磋琢磨したことで、多くの刺激と影響を受け物事に対する考えかたの幅が大きく広がったこと、そして授業は主に文献やケースを利用して、マーケティング、会計、経済等を国際的視点で捉えた後、自らのビジネス経験を鑑み

て教授を含めディスカッションを行うスタイルであったため、単に知識の詰め込みではなく論理的思考能力の醸成に役立ったこと、等です。土曜日を含む週3回の通学、毎週のレポート提出等、仕事と学業の両立は想像以上に大変でしたが、それ以上に、今まで経験したことがない、有意義かつ充実した日々を過ごすことができました。

HBSを卒業するには、2年間の集大成として修士論文を提出しなければなりません。2年目は、年明けの提出期限に向けてまさに正月返上の執筆でした。私の修論タイトルは「異文化ビジネス交渉学」。今後も研究を継続させ、将来はこの分野のスペシャリストとして活躍したいと考えています。2009年3月、NTTコミュニケーションズ・グローバル事業本部を退職し、4月から現職に転じました。また、2011年4月から、法政大学GIS(グローバル教養学部)兼任講師もつとめております。

人材・組織マネジメントコース

人材と組織の課題について考える人のために



人材と組織のマネジメントは、戦略やマーケティング、ファイナンスなどと並んで、欧米をはじめとするビジネススクールのカリキュラムの柱です。人材と組織のマネジメントに関わる実務上の課題の多くは、組織の振る舞いと個人の意識・行動とのあいだの緊張関係のなかにあります。わたしたちの人材・組織マネジメントコースは、そうした課題の解決策を、事実に基づく徹底した議論と理論的考察をつうじて見いだしていこうとする人のためのコースでありたいと考えています。現に、人事担当のほか、職場マネージャーや第一線で働く社会人として、そのような人材と組織の課題について考える人たちが、わたしたちのコースで学んでいます。

人材・組織マネジメントコースでは、人材 (Human Resources) と組織 (Organization) とを真正面にすえて専任教員を配し、少数精鋭の社会人の大学院生に向けて教育を行っています。コースの教員は、いずれも人材と組織のマネジメントに関する研究の専門家です。とはいえ、学問的バックグラウンドは、経営学、経済学、社会学、心理学と様々です。このことは、皆さんが、幅広い視点から人材と組織の管理について考える理論的な知識や思考を学び取るのに役立つはずですが、また、実務経験をもつ教員も少なくないほか、みな実証的な調査研究をつうじて実務にかかわりあっています。

本コースのもうひとつの特徴は、修

士論文指導を個別に行うだけでなく、コースの教員全員が合同・協力

して、論文計画発表会や合宿形式による論文中間発表会、最終的な論文指導までを行い、多様な見地から丹念に指導にあたることにあります。修士論文には、研究者向けの大学院修士課程と変わらない水準を求めています。毎年、コースの社会人大学院生の皆さんが、修士論文の執筆に真剣に向き合い、研究課題と格闘しています。その成果として多数の優れた論文が生まれおり、その一部は、「キャリア研究選書 シリーズ日本の人材形成」(ナカニシヤ出版)の『プロフェSSIONALの人材開発』、『女性の人材開発』、『雇用形態の多様化と人材開発』、『国際化と人材開発』として出版されています。

もちろん、本コースでは、教員が一方向的に教えようとしているわけではありません。大学院で学び、修士論文を作成するプロセスは、自ら実践的な研究課題を見つけ、それに答えるべく、過去の研究の蓄積のなかから利用できるものを取捨選択し、それでも不足するところを自らの情報収集と理論的な考察で補い、具体的かつ普遍性のある答えを見出していくプロセスです。わたしたち教員は、それをサポートしていきます。このような本コースでの経験は、皆さんの組織における実践とキャリアにきつといかせるはずですが、



■ 教員紹介および担当科目 ■

川喜多 喬 教授

研究テーマ: 職業事情、キャリア形成、人材育成

岸 眞理子 教授

研究テーマ: 組織と情報、組織コミュニケーション

担当科目: 経営情報論、人材・組織マネジメント演習

長岡 健 教授

研究テーマ: 職場学習、組織エスノグラフィー

担当科目: 経営組織論、人材・組織マネジメント演習

奥西 好夫 教授

研究テーマ: 雇用・人事制度の統計分析・国際比較

担当科目: 人事制度論、人材・組織マネジメント演習

西川 真規子 教授

研究テーマ: ジェンダーと労働、仕事と生活

担当科目: 組織行動論、人材・組織マネジメント演習

佐野 哲 教授

研究テーマ: 労働力需給調整システム、社会政策

担当科目: 人材・組織マネジメント演習

佐野 嘉秀 准教授

研究テーマ: 人材マネジメント、雇用ポートフォリオ

担当科目: 人的資源管理論、人材・組織マネジメント演習

小川 憲彦 准教授

研究テーマ: 組織社会化、組織文化、採用活動

担当科目: キャリア・マネジメント論、人材・組織マネジメント演習

クラスメートの多様性と学生間のコミュニケーションが魅力

● MBA 修了生からの声

鐘内 美奈



● 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 特別嘱託 (在ヴェトナム)

私が社会人大学院に興味を持ったのは、途上国で人材育成のための技術移転を経験し、今後も同様の現場で仕事を続けていきたいと考えたためです。幅広い視点で、途上国の人材開発に関する問題の解決策を提案できるようになるためには、現場の経験の積み重ねだけではなく、理論や幅広い実践などを身につけることが必要ではないかと考え、人材と組織を専門とするHBSの本コースの受験を決めました。

HBSで最も刺激を受けた点は、クラスメートの多様性です。人材や組織は、業種や業態に関わらず重要な課題です。このため、他の専攻やコースからの学生も含め、様々なバックグラウンドを持った学生が、授業に出席しています。授業は、理論やケースの紹介だけでなく、社会人である各学生が抱える、人材や組織に関する課題を、ケースとして学生間で共有し議論することが多く、理論を、実際の事象に当ては

● (2009年3月修了)

めて、考えたり分析したりする実践的な形態となっています。多様な背景を持つ学生が自らのケースを発表するため、広範な業種に渡ると共に、議論の際の意見や視点も多様で、考え方の幅を広げるよい機会となりました。さらに、授業の内外での先生方も含めた学生間でのコミュニケーションは、他に得がたいHBSの大きな魅力であり、貴重な議論の機会だったと思います。

実際に、仕事と両立させて、課題や授業準備、特に2年時の修士論文のための研究を進めることは、時間管理の点からも大変ではありましたが、人材や組織に関する専門的な分野についてだけでなく、修士論文の作成や授業でのディスカッションを通して、論理的な思考や事象の分析といったスキルについても身につけることができ、非常に中身の濃い、充実した2年間だったと感じています。

マーケティングコース

マーケティングを深く学びたい人のために



HBSマーケティングコースは、実務での豊かな経験を持ちながらも、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目で理論を学ながら、「マーケティング・リサーチ論」で定量的手法と定性的手法の研究の両方法論を学ぶことで、社会科学の調査・分析の力を身につけていくことができます。

1年次には、皆さんはこうしたマーケティングの理論や方法論を体系的に学びつつ、それらの理論と皆さんのもつ実務での課題を照らし合わせ、研究課題をブラッシュアップしていきます。この理論と実務課題を付き合わせることで、今までにない面白い研究やビジネスのアイデアにつながる可能性があります。そういうと難しいそうですが、「あれ、この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめてみたら、現実の問題がクリアになりそうかも」というような直観的な感想で、最初の段階は充分です。

こうした理論や課題、研究アイデアを手がかりに研究を進め、1年次の終

わりには、研究計画の報告を行います。その報告を受けて、それぞれの研究課題や方法論に近い専門分野をもつマーケティングコースの教員が、担当教員となる予定です。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。もちろん、皆さん自身の努力も必要ですが、講義での多くの仲間との議論や学習は楽しみながら、マーケティングの理論や方法論を身につけていくことができます。さらには2年次の先輩や修了したOBも多くのアドバイスやサポートをしてくれます。こうした体制が円滑に進むように、1年次の最初のオリエンテーションの後に、先輩やOBが皆さんの歓迎会をすることが恒例となっています。こうした同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かかげのない友人づくりにつながったという意見も多く聞きます。

2年次には、演習（ゼミ）で、他のゼミ生と共に、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を実際に作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、教員から専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コースの全教員が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。

こうした新しい研究課題に出会えることは、教員にとってもとても楽しみです。皆さんと一緒にマーケティングの新しい研究ができることを期待しています。

■ 教員紹介および担当科目 ■

矢作 敏行 教授

研究テーマ：流通イノベーション、小売国際化プロセス、流通系マーケティング理論

担当科目：流通システム論、マーケティング演習

柳沼 寿 教授

研究テーマ：産業クラスター、知的クラスター、イノベーションとネットワーク等のSocial Capital

担当科目：産業基礎、マーケティング演習

竹内 淑恵 教授

研究テーマ：広告コミュニケーション効果、ブランドマネジメント、消費者行動

担当科目：マーケティング論、マーケティング演習

西川 英彦 教授

研究テーマ：ユーザー・イノベーション、インターネット・マーケティング

担当科目：マーケティング・リサーチ論、マーケティング演習

田路 則子 教授

研究テーマ：製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略

担当科目：製品開発論、マーケティング演習

新倉 貴士 教授

研究テーマ：消費者行動、ブランド・マネジメント

担当科目：消費者行動論、マーケティング演習

木村 純子 教授

研究テーマ：消費文化論

担当科目：サービス・マネジメント論、マーケティング演習

MBAで学んだビジネスの共通言語をグローバル・ビジネスで使う

● MBA修了生からの声

甲斐 敦也



● 株式会社東芝セミコンダクター社

● (2007年3月修了)

入学当時の私は、社会人としてようやく落ち着き始め、仕事を自分のペースで回せるようになっていました。気がつくと、仕事上で疑問に思うことや課題が増えていき、体系的にビジネススクールで学ぶことでそれらを解決してみたいと考えるようになりました。HBSを選択した理由は、仕事との両立が可能な立地条件と授業時間、ケーススタディと理論のバランスの良さでした。

入学して最初に驚かされたのは、マーケティング論の講義です。700ページ以上のテキストやジャーナルなど全てが英語。英語が苦手だった私は本当に苦労しました。しかし、この最初の必須科目で英語に対する覚悟というか免疫ができ、他の科目や修士論文作成の際のジャーナルの参照に役にたちました。

また、HBSの特徴として、論文指導に力を入れている点あげら

れます。私の場合は、半導体業界の流通に関する研究テーマを選び、企業ヘインタビュするフィールドワークと文献レビューを通じて、客観的な理論を構築していきました。苦労の連続でしたが、少人数のゼミを特徴とするHBSならではの手厚い論文指導を受けながら、何とか完成にこぎ着けることができました。

卒業後は株式会社東芝へ転職し、海外向けの半導体デバイスのマーケティングを行っています。論文作成の際の産業分析や講義で学んだマーケティング、経営戦略、組織論、アカウンティング等が役に立っています。特に海外とのやり取りでは、英語という共通言語以外に、MBAで学んだビジネスの共通言語とも言うべき理論や概念のおかげで、コミュニケーションがスムーズに取れています。

アカウンティング・ファイナンスコース



アットホームな雰囲気とマンツーマンの研究指導体制

HBSアカウンティング・ファイナンスコースの特徴は、多様な専門分野で多くの教授陣を揃えているところにあります。「会計と財務」という大きな枠組みの中に、財務会計論、管理会計論、税務会計論、経営分析、インベストメント理論、財務戦略論、企業評価論といった多岐にわたる専門科目を幅広く設定しています。それぞれの講義はアットホームな雰囲気が進められるきめ細やかなもので、また、各講義の内容がワークショップや教授間の人的ネットワークを介して統合されることにより、深みのある教育空間の整備が可能になっています。もちろん、2年次の修士論文指導にもそうした特徴が色濃く反映され、それぞれの社会人院生が、自らの問題関心に最も近い教員を選びマンツーマンで指導を受ける一方、他の教員が入れ替わり立ち替わりサポートするような体制が整っています。

社会人院生の方に期待したいのは、実社会の経験を良い形で大学院での勉強に生かして欲しいということです。私自身は社会人として企業で働いた経験はありませんので、社会人院生の方から聞く



現場の生々しい様子を、いつも大変興味深く聞いています。実務の現場を知らない

がために、論文などに出てくる様々な資本市場の仕組みや制度、金融商品などについて、正直ピンとこないこともしばしばあります。こんな時、実務の現場を知っている社会人院生は、一般の院生とは違う大きなアドバンテージを持っていると感じます。

その一方で、社会人院生の方が陥りやすい、ある種のパターンのようなものがあることも事実です。初歩の理論を学んでいる時に、ときおり「実際の現場ではそのようなことはありえない」ということで真面目に聞いてくれないことがあります。確かに基礎的な理論というのは、物事を極端に単純化し抽象化したものが多いため、非現実的に感じられることでしょう。たとえば「完全資本市場の下では企業の資本構成は企業価値に影響を与えない」というMM理論の有名な第一命題というものがありますが、現実問題として自己資本比率が著しく低い企業は倒産の危機に晒されており、それゆえ企業価値も低迷することは経験上知っているはずですが、「そんな現実とはかけ離れたことを教わるために来たのではない!」と拒絶したくなる気持ちも分かりますが、それではせっかく大学院に来た意味がありません。

純粋に理論的に導き出される内容と、現実とは往々にして違うものです。なぜ理論のとおりには現実とは動かないのか、というところから新しい理論が生まれ、どんどん深化していく、そういう過程を皆さんと一緒に学びながら、現実にある様々な問題を考えていきたいと思っています。

■ 教員紹介および担当科目 ■

大下 勇二 教授

研究テーマ: フランス・ブラン・コンタブル・ジェネラルの研究
担当科目: 税務会計論、会計学基礎

岸本 直樹 教授

研究テーマ: デリバティブ、経路依存型証券、証券化等の価格モデル
担当科目: 基礎ファイナンスI、インベストメント理論

福多 裕志 教授

研究テーマ: 大規模財務データの動態的局を視覚的に解明すること
担当科目: 経営分析

神谷 健司 教授

研究テーマ: 会計基準の国際比較と非営利組織の業績測定問題
担当科目: アカウンティング・ファイナンス演習

簡井 知彦 准教授

研究テーマ: 利益計算とディスクロージャー、会計基準の国際的調和
担当科目: アカウンティング・ファイナンス演習

八重倉 孝 教授

研究テーマ: 業績報告、会計情報による企業評価などに関する実証研究
担当科目: 企業評価論

福田 淳児 教授

研究テーマ: 管理会計システムの設計が知識の移転に及ぼす影響
担当科目: ワークショップ

金 瑠音 教授

研究テーマ: 金融資産価格付け、企業財務
担当科目: 財務戦略論、基礎ファイナンスII、アカウンティング・ファイナンス演習

川島 健司 准教授

研究テーマ: 資産の時価測定に関する実証的研究、
資産評価の会計基準分析
担当科目: 財務会計論

永野 則雄 教授 (イノベーション・マネジメント研究科アカウンティング専攻)

研究テーマ: 会計的認識: 測定の概念的な研究、会計変化の研究
担当科目: 会計学基礎 (コース共通科目)

菊谷 正人 教授 (イノベーション・マネジメント研究科アカウンティング専攻)

研究テーマ: 国際会計論、税務会計、租税法
担当科目: 国際会計論

坂上 学 教授

研究テーマ: XBRLを用いた財務ディスクロージャーおよび内部統制に関する研究
担当科目: 会計情報論

専門コースを越えて研究を味わい、MBA在学中に独立

● MBA修了生からの声

大林 浩



●株式会社モバイル・アフィリエイト 代表取締役社長

●(2006年3月修了)

私は大学卒業後、日系証券会社で上場企業の経営者層に資金調達の提案を行う仕事を行っていました。そして、顧客の満足度を高めるためには、自分の知識を高めることが大切だと常に考えていました。また、実務上での知識・経験とアカウンティングやファイナンス理論の知見をクロスオーバーすることで、自分の能力を更に昇華できるものと考えました。そこで、大学院進学を検討したのですが、数ある大学院の中で、HBSを選んだのは、社会人向け大学院として実績があることのほか、金融の専門知識に特化するのではなく、「経営」という幅広い領域の中から自分の力が足りない分野、あるいは、興味のある分野について自由に学べる点が決め手となりました。

実際、当初はファイナンスを中心に学ぶつもりで入学したのです

が、入学後は、企業家養成コースの授業にも興味が湧き、それらの科目とファイナンスの科目をほぼ半々の割合で受講しました。ファイナンスの院生と企業家養成の院生とは、職業や大学院入学の目的などが全く異なり、したがって、どちらのコースも味わったことで非常に刺激的な時間を過ごすことができました。また、想像以上に会社と大学院生の両立は厳しいのですが、それを乗り越えることができたのは、授業の楽しさだけでなく、いっしょに学んだ院生のモチベーションが高かったことが一因だと思っています。

私は、HBS在学中、前述の証券会社を退職し企業経営者になりました。企業経営者になった今では「マーケティング」や「人材・組織」の知識も習得したいと考えています。

コース共通科目

各コースが提供する高度な専門教育をよりよく理解し、さらに、より効果的にビジネスに活用するためには、ビジネス全般に関する入門的科目の履修が不可欠です。これについて当専攻では、「コース共通科目」として、経営学、会計学、経済学、統計学、情報科学の基礎科目を設置しています。また、産業、日本経済等に関する入門科目も「コース共通科目」としてカリキュラム化しています。

■ 教員紹介および担当科目 ■

林 直嗣 教授

研究テーマ:金融と経済の理論・実証・政策
担当科目:経済学基礎

児玉 靖司 教授

研究テーマ:データマイニング、教育工学
担当科目:情報学特論

鈴木 武 教授

研究テーマ:経済現象におけるベキ乗則、とくに都市データを用いた研究
担当科目:統計データ解析

寺井 公子 教授

研究テーマ:政治制度と公共財供給
担当科目:経済学基礎

平田 英明 准教授

研究テーマ:日本の景気変動分析、日本の金融システム
担当科目:日本経済論

豊田 敬 教授

研究テーマ:分配問題(とくに不平等解析)
担当科目:統計データ解析

入戸野 健 教授

研究テーマ:ネットワーク技術、確率・統計的計算モデル
担当科目:e-ビジネス論

HBS 現役生からの声

(修士課程) マーケティングコース



●原 仁史
株式会社アイ・ユー・ケイ
アイエヌキューブ事業部
担当部長

私の入学の志望動機は、漠然と勉強したいという思いが出发点でした。

激動のIT業界に新卒で就職して以来、仕事において不満はなく、充実した社会人生活を送ってきました。しかし時々ふと足を止めて軌跡を振り返ってみると、得てきた知識は多少広いものの浅くてムラがあり、いつも不足感がありました。そして社会人生活の終わりがそろそろ見え始め、これからさらに知識を得ていくために、指導を仰ぎ、学習していくことが必要と考え、強く入学を希望するようになりました。

願書を提出する前に、学業と仕事と家庭の両立方法や、どのような研究テーマがどのコースにふさわしいのかなどを事務部に相談したところ、専攻主任が時間を割いて下さり、不安や疑問に気さくにお答え下さいました。この瞬間から、翌春の開講が待ち遠しくなりました。この後願書と共に提出する研究計画書を作成することになりますが、自問自答を繰り返すことで、本当に自分が学びたいことは何かがおぼろげに見えてきて、入学の目的がより明確になりました。

入学し講義が始まると、経営学に関わる知識には多少の自信を持っていたものの、自己学習のバイアスを思い知らされました。二年間という短時間でこのギャップを埋めるのかと思うと、身震いするほどです。そしてやはり生活は一変しました。しかしそれは毎日寝る間も惜しいほどに知りたいことが増えていく充実感と、学びによって少しずつ知識が埋まっていく充足感であり、二年間で終わらせてしまうには惜しいと感じ始めているほどです。

教室では同じ専攻のクラスメイトだけでなく、上級生や他のコースを選択している年齢も職業も異なる学ぶ仲間が待っています。この仲間と共に講義を受け、課題をこなし、グループ討議を行うことは、学んだ知識の整理と深化に大いに役立ちます。しかもそれぞれにしっかりとした意見があるので、強い刺激や動機となることは間違いありません。来春皆様と仲間としてお会いできることを、心から楽しみにしております。

(博士課程) 国際経営コース



●神原 浩年
メーカー勤務
生産管理課 課長

私は幸運にも大学を卒業して入社した会社から、米国の大学で勉強する機会を与えてもらいました。派遣期間は1年間で、学部レベルの授業を10科目程度履修しました。その時、MBAという存在を身近に感じることができました。「いつかきっと大学院で経営学の勉強をしたい」と強く胸に秘めて帰国したのは、もう20年近くも前のことです。しかし、当時の日本では、社会人にとって大学院で経営学を勉強するのはあまり現実的ではありませんでした。それで、世界を飛び回る海外営業マンを目指して転職しました。多忙な日々を送るようになりましたが、仕事に慣れ始めた頃、大学院での勉強意欲が再燃し、夜間開講している大学院で経営学を勉強できる学校について調べてみました。私がHBSを受験する決意をしたのは、夜間大学院のパイオニア的存在であり実績があったこと、「国際経営」という興味のある分野のコースがあったからです。

HBSの特徴としては、実務的な部分とアカデミックな部分のバランスが非常に良いことが挙げられます。例えば、ワークショップの授業では毎週いろいろな業界を代表する企業などから講師を招き、実践的なお話を伺いながら活発な質疑応答が行われます。また、専門職大学院であるイノベーションマネジメント専攻やアカウンティング専攻の科目を履修することも可能です。さらに、経済理論や計量的分析手法を学びたい方は、経済学研究科の科目も履修できます。1つのキャンパスでこれだけ幅広い科目から選択できるのは、HBSで学ぶメリットと言えます。また、HBSでは修了要件に修士論文の執筆が課されます。これは、先行研究のサーベイから始まるアカデミックな内容のものが求められますが、それぞれの分野の専門家の先生が懇切丁寧に指導して下さい、一生の自分の財産になるでしょう。

私はHBSの修士課程を修了してから4年後、博士課程の入試にチャレンジしました。さらに険しい道を歩み始めましたが、熱心な先生、勉強仲間、強力な大学施設に恵まれ、楽しく勉強させていただいています。どうか、皆さんもHBSの門を叩いてみてください。

アクセスの利便性

- J R 線 総武線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 地下鉄線 都営地下鉄新宿線：市ヶ谷駅下車徒歩10分
- 都営地下鉄大江戸線：飯田橋駅下車徒歩10分
- 東京メトロ有楽町線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 東京メトロ東西線：飯田橋駅下車徒歩10分
- 東京メトロ南北線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分



問い合わせ先 法政大学 大学院事務部(法政大学大学院棟1階)

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2 TEL.03-5228-0551~0552 FAX.03-5228-0555 E-mail:hgs@adm.hosei.ac.jp

法政大学大学院経営学研究科経営学専攻夜間コース <http://www.i.hosei.ac.jp/~hbs/>